ベネズエラ情勢（内政・外交：令和６年６月）

１　内政

（１）　次期大統領選挙にむけた与党の動き

（ア）　２日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、ボリバル州シウダ・グジャナで集会を実施した。

（イ）　４日、マドゥーロ大統領はトゥルヒージョ州を訪問し、支持者に向けて、メキシコの大統領選挙で左派候補者が勝利した動きに、ベネズエラも続かねばならないと述べた。

（ウ）　１６日、マドゥーロ大統領は、バリナス州の３名の野党側市長（Frenchy Tomás Díaz ペドラサ市長、Nelson García Mora サモラ市長、José Adrián Azuaje オビスポス市長）と会合し、インフラ、道路整備関連のプロジェクトを進める旨約束した。

（エ）　１７日、ディオスダド・カベージョ PSUV 第一副党首は、スリア州を訪問し、マラカイボ市内のマラ地区で開催されたイベントに参加した。

（オ）　１９日、カルメン・メレンデス・リベルタドール市長は、ラ・カンデラリア地区にて、マドゥーロ大統領を支持する集会を実施した。

（カ）　２０日、マドゥーロ大統領は、スリア州マラカイボ市内のマラ地区にて、カベージョ PSUV 第一副党首、ホルヘ・ロドリゲス政権側国会議長、ラファエル・ラカバ・カラボボ州知事と共に、選挙キャンペーンを実施した。

（キ）　２１日、カベージョ PSUV 第一副党首は、ラカバ・カラボボ州知事等と共に、コヘデス州ティナキージョにて、選挙キャンペーンを実施した。

（ク）　２５日、カベージョ PSUV 第一副党首は、メリダにて、政治集会を実施した。

（ケ）　２７日、マドゥーロ大統領は、スリア州カビマス市にて、政治集会を実施した。

（コ）　２７日、ロドリゲス政権側国会議長は、当地アルゼンチン大使館で庇護されているベンテ・ベネズエラ党関係者であるマガリ・メダ氏並びにウンベルト・ビジャロボス氏が、次期大統領選挙に向けた「犯罪行為」を計画していると発言した。

（２）　次期大統領選挙にむけた野党の動き

（ア）　５日から７日にかけて、マチャド氏は、ボリバル州を訪問し、７日にはガイアナ開発公社（CVG）労働者との間で会合を実施した。なお、マチャド氏がボリバル州に向かう道中、アンソアテギ州の高速道路上でも、野党側支持者の歓迎を受けた。

（イ）　７日、マチャド氏は、デルタアマクロ州を訪問し、支持者に向けて投票に行くことの重要性を強調した。

（ウ）　７日、ゴンサレス候補は、タチラ州の複数の市長と会合し、これら市長から支持を得ることができたと述べた。

（エ）　８日、ゴンサレス候補は、ラ・グアイラ州を訪問した。

（オ）　１４日、マヌエル・ロサレス・スリア州知事はバリナス州を訪問し、セルヒオ・ガリド同州知事と共に市内を巡り、ゴンサレス候補に対する支持を表明した。

（カ）　マリア・コリナ・マチャド氏は、１９日から２０日にかけてグアリコ州、２１日にはコヘデス州を訪問した。

（キ） マチャド氏は、２５日から２６日にかけてメリダ州、２７日から２８日にかけてタチラ州を訪問した。

（ク） ゴンサレス野党統一候補は、２６日にミランダ州バルロベント、２８日にアラグア州マラカイを訪問した。また、２９日から３０日にかけてボリバル州を訪問した。なお、バルロベント訪問時には、支持者が国軍（GNB）に拘束される事案が発生した。

（ケ） ２６日、ゴンサレス候補は、アトランティック・フォーラムにおいて、次期大統領選挙には自由で透明性のあるプロセスが保障されていない旨批判した。

（３）次期大統領選挙に関連する全国選挙評議会（CNE）の発表等

（ア） ２日、CNE は７月２８日の大統領選挙に向けた有権者登録情報を公表した。

（イ） ２０日、CNE にて、次期大統領選挙に出馬している候補者１０名のうち８名が、同選挙の結果尊重等を約束する文書「２０２４年７月２８日大統領選挙の結果承認に関する合意」への署名を行った。なお、ゴンサレス候補、並びにマルケス候補は、本件は事前に協議されたものではなく、押しつけであるとして署名を行わなかった。

（ウ） CNE は、６月２０日付官報第１０６０号を以て、次期大統領選挙における投票台の証人等にかかる規定を公表した。なお、今回の決定により「各投票台の証人は、その投票台が設置される投票所で投票する者でなければならない」旨新たに規定された。

（エ） ３０日、全国選挙評議会（CNE）は、７月２８日の大統領選挙に向けた投票シミュレーションを実施した。

（４）野党側関係者・市長等の逮捕や公職就任資格停止

（ア） １４日から１５日にかけて、８日のゴンサレス野党統一候補のラ・グアイラ州訪問に同行した野党関係者３名（大衆意志党（VP）２名、ベンテ・ベネズエラ党１名）、及び新聞記者１名が逮捕された。

（イ） １９日、トゥルヒージョ州、並びにヌエバ・エスパルタ州の野党側市長１０名の公職就任資格が停止されていることが判明した。なお、これら市長は、５月にゴンサレス候補と会合していた。

（ウ） ２０日、タチラ州の野党側市長２名に逮捕命令が出され、１名は逮捕されたが、もう１名については逃亡し、逮捕には至らなかった。

（５） 新閣僚の任命

（ア） ６日、マドゥーロ大統領は、アンヘル・プラド新コミューン・社会運動大臣を任命した。

（イ） １１日、マドゥーロ大統領は、フリオ・ホセ・ガルシア・セルパ新刑務所大臣を任命した。

（ウ） １７日、マドゥーロ大統領は、エクトル・シルバ新エコロジー鉱業開発大臣を任命した。

（６） その他

（ア） ９日、国内全土の刑務所にて、相談なしの移送、司法プロセスの遅れを不服とする囚人がハンガーストライキを開始した。

（イ） １３日、セルパ新刑務所大臣は、国内全土の刑務所における囚人によるハンガーストライキ実施に伴い、複数の刑務所を訪問し、状況を見直す旨約束した。９日から１３日まで実施された今回のストライキには少なくとも５万人の囚人が参加した。

（ウ） ２４日、カラボーボの戦勝記念日に際し、マドゥーロ大統領は軍幹部と共に、軍事パレードに参加した。ま

た、同機会に、新たな軍事階級「General del Pueblo Soberano」を設ける旨発表した。なお、同階級は将軍階級の中でも最高位に位置づけられ、道徳、倫理面においても模範となる将軍に付与される。

２　外交

（１） 要人往来

（ア）　４日から７日にかけて、ヒル外相は、ベネズエラ・中国外交関係樹立５０周年に際し中国を訪問。王毅党中央政治局委員兼外交部長との会談、全国人民代表大会常務委員会副委員長との会合、中国人民政治協商会議主席との会合、中国国家航天局（CNSA）局長と会合、習近平外交思想研究センター訪問、北京農業・森林科学アカデミー訪問、中国・ベネズエラ外交関係樹立５０周年記念式典への出席、在中国ベネズエラ大使館内でのシモン・ボリバル広場除幕等を実施した。

（イ）　８日、ヒル外務大臣は、ベトナムを訪問し、ブイ・タイン・ソン・ベトナム外務大臣と会談等を実施した。

（ウ）　１１日、ヒル外相は、ロシアのニジン・ノヴゴロドにおいて開催されたBRICS外相会合に出席し、ベネズエラのBRIC加盟希望を改めて表明した。また、ラブロフ露外相との間で、米国等により課された「一方的強制措置との闘いにおける協力のための覚書」に署名した。なお、今次訪問中、ヒル外相は、マウロ・ヴィエイラ伯外相、タイエ・アツケ・セラシエ・エチオピア外相、アリー・バーゲリキャニ・イラン外相代行との間で、それぞれに二国間外相会談を実施した。

（エ）　１１日、マドゥーロ大統領は、企業間同盟、並びにエネルギー分野における二国間協力強化を目的に、アーサー・エゼ・アトラス・オラント・ペトロリアムCEOをヘッドとするナイジェリア代表団と会合した。

（オ）　１３日、ヒル外相は、国連にて演説行い、一方的な経済措置を政治・経済的強制措置としてのみ監視するのではなく、同措置が課される国の貿易、開発分野に与える損害についても注視すべきであると主張した。また、ベネズエラに課されている９３０件の一方的強制措置が、国の発展を妨げ、国民を苦しめている旨改めて表明した。

（カ）　２５日から２８日にかけて、フレデリック・ムシーワ・マカムレ・シャワ・ジンバブエ外務・国際貿易大臣がベネズエラを訪問し、二国間協力関係の更なる強化を目的に、デルシー・ロドリゲス副大統領との会談、ヒル外相との会談、国立霊廟での献花式等を実施した。なお、今次訪問中、第１回合同委員会が開催され、１１件の二国間協力に関する合意文書への署名が行われた。

（キ）　２８日、邱小琪中国政府中南米担当特別担当は、ベネズエラを訪問し、マドゥーロ大統領表敬、国立霊廟での献花式、外務省での記念式典をはじめとするベネズエラ・中国外交関係５０周年を記念する各種式典に参加した。また、両国は、本年１０月のベネズエラ国営航空モスクワ経由広州便就航を発表した。

（２）次期大統領選挙にかかる国際選挙監視団等に関する動き

（ア）　３日、伯選挙最高裁判所（TSE）は、ベネズエラの次期大統領選挙実施に際し、選挙監視団を派遣しない旨発表した。

（イ）　５日、マドゥーロ大統領は、ルーラ伯大統領との電話会談を実施した。同会談では、７月２８日にベネズエラで実施予定の次期大統領選挙をはじめとする各種テーマについて協議され、ルーラ大統領からは幅広い国際選挙監視団の受け入れの重要性について表明した。

（ウ）　２５日、国連は大統領選挙に向けて国連専門家パネルを派遣する旨発表。

（３） その他

（ア） ３日、ベネズエラ政府は、５月２９日に投票、６月２日に結果が発表された南アフリカ共和国での総選挙（国民議会、州議会）実施に対する祝意を表明するコミュニケを発出した。

（イ） ３日、ベネズエラ政府はメキシコでの大統領選挙におけるクラウディア・シェインバウム候補の勝利に対する祝意を表明するコミュニケを発出した。

（ウ） ５日、ベネズエラ政府は、４月１９日から６月１日にかけて実施されたインドでの総選挙に対する祝意を表明するコミュニケを発出した。

（エ） ６日、サムエル・モンカダ・ベネズエラ国連代表が、国連総会副議長に選出された。

（オ） ７日、ベネズエラ政府は、トルコ政府との間で、①鉱物・金・銅の探査・発掘、並びに商業化のための利権契約、②天然ガス・液体ガスのバリュー・チェーン展開のための戦略的同盟、③石油化学関連の活動の展開に向けた投資・生産への参加に関する契約に署名した。

（カ） １４日、イタリアで開催されたG7サミットにて、ベネズエラの次期大統領選挙プロセスに関する言及を含む首脳宣言が採択されたことに対し、ヒル外相は自身のXアカウント上で、「(G7諸国は）植民地主義的実践を繰り返し、関係のない事案に干渉しようとしている」と、右宣言の内容を批判する発信を行った。

（キ） ２１日、マドゥーロ大統領は、カラカスで開催された経済開発国際セミナーに電話で参加し、「現在のベネズエラでは、国内需要を満たすために、物的・財政的豊かさを生み出す多様性に富んだ新たな経済が確立されている。経済危機、経済戦争は、完全に終結した」とのメッセージを発信した。

（ク） ２１日、カラカスで開催された経済開発国際セミナーの枠組で、デルシー・ロドリゲス副大統領は、二国間での協力・友好関係、連携の更なる強化に向けて、Fan Gang中国国立経済研究所所長と会合した。また、同機会に、ベネズエラ、中国両国政府は、経済発展に向けた両国間での知識の共有促進を目的に、経済、技術、イノベーション分野における協力に関する合意文書３件に署名した。

（ケ） ボリビアのラパスにて、大統領官邸が軍事部隊に襲撃されるクーデター未遂が発生したことに伴い、２６日、ベネズエラ外務省は、右試みを激しく拒絶する旨コミュニケを発信した。また、マドゥーロ大統領も、自身の「X」アカウント上で、クーデターを拒絶し、ボリビア国民への支援に向けた恒久的活動を宣言する旨発信した。

（コ） ２４日から２９日にかけて、カラカスにて、コロンビア政府と同国反体制派セグンダ・マルケタリア間での和平対話の第一ラウンドが実施され、開会式には、ヒル外相が出席した。